

# ピアノ作品解釈とキャリア研究

## 秋学期 第2回

日時: 9月20日(金) 15:50~17:20

場所: TCMホール

講師: ロナン・オホラ 先生

英 ギルドホール音楽演劇大学教授 本学特任教授

通訳: 佐藤 展子 先生

内容: ピアノ公開レッスン①②

① R.シューマン: 幻想曲 ハ長調 作品17 第1楽章

受講生 学部2年 池田ありさ

② L.v.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ 第30番 作品109

受講生 学部1年 仁宮花歌

**☆必ずシューマンの幻想曲、ベートーヴェンの30番ソナタの楽譜を持参すること。**

**☆必ずメモをとれるノート等を用意して各自記録をとってください。**

ローナン・オホラ 先生 【プロフィール】

1964年マンチェスターに生まれたオホラは、同市の王立北部音楽大学でリチャルト・バクスト教授に師事。ダヤス・ゴールド・メダル、ワーシップフル・カンパニー・オブ・ミュージシャンのシルバー・メダル、5年に一度優れたショパン演奏家に与えられる Stefania Niekrasz 賞など、数々の重要な賞を受賞している。BBC ラジオ3で放送された80本を超えるコンサートを始め、ワルシャワ・ショパン協会でのリサイタルやオランダ放送室内管弦楽団との共演によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番のテレビ放送、BBCの二本のテレビ番組でのモーツァルトの室内楽演奏など、その演奏は世界中のテレビ・ラジオで放送されている。

レコーディングも高い評価を得ており、モーツァルト、グリーグ、チャイコフスキーの協奏曲や、シューベルト、ブラームス、ドビュッシー、シューマン、ベートーヴェン、ショパン、モーツァルト、メンデルスゾーン、サティのソロ演奏、さらにフォーレ、ブリテン、ドビュッシー、ドヴォルザーク、モーツァルトの室内楽など30枚以上のCDをTring International、Virgin Classics、Dinemic、Foneレーベルから発表している。グラモフォン誌のエディターズ・チョイスに選ばれ「(ジェームズ・ジャッド指揮、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との共演の)グリーグのピアノ協奏曲は、その新鮮さを録音しようとするならば、大胆華麗にして大仰にならない演奏に加えて、イメージーションと極めて精緻な感情表現が要求される楽曲である。ローナン・オホラは... 不思議にもこの非常に美しい録音演奏にすべての美德を与えただけでなく、二度、三度と聞いても演奏は毎回完全に即興的で... 見事なカデンツァである...」と講評された。

現在ロンドンのギルドホール音楽演劇学校で鍵盤楽器研究科長および高度演奏研究科長を務める。

※学内の方は聴講可能です。

2024年8月28日